

福知山市商工会 企業業況調査

令和2年7月調査結果(令和2年4月～6月分 調査対象 85件) (令和2年8月7日公表)

■景況感

	今回調査数	現状		先行3ヶ月		先行1年		
		今回	前回	今回	前回	今回	前回	
全体	84	25.3	27.6	25.9	24.1	27.7	25.6	
地域別	三和	19	19.7	26.3	21.1	19.7	26.3	25.0
	夜久野	28	21.4	25.9	25.9	22.4	28.6	24.1
	大江	37	31.1	29.7	28.4	27.7	27.7	27.0
業種別	製造業	22	23.9	27.9	27.3	21.2	33.0	29.8
	建設業	26	31.7	40.6	32.7	33.3	26.9	26.0
	卸小売業	11	25.0	15.0	20.5	20.0	25.0	25.0
	サービス業	25	20.0	20.0	20.0	20.0	25.0	19.0

景況感DIの算出方法

回答構成比(%)に、以下の点数を乗じてDIを算出
 良い+1.0、やや良い+0.75、どちらともいえない+0.5、やや悪い+0.25、悪い+0.0
 (すべてが「どちらともいえない」と回答した場合、DIは「50.0」)

景況感DIは25.3と前回調査よりも2.3ポイントのマイナスとなった。地域別で見ても、三和が6.6ポイント、夜久野が4.5ポイントのマイナス、大江は前回は12.7ポイントと大幅なマイナスの反動で、逆に1.4ポイントのプラスになっている。業種別では製造業で4.0ポイント、建設業で8.9ポイントのマイナスとなり、卸小売業の10ポイントのプラス、サービス業の±0となっている。卸小売業及びサービス業においては、前回調査(令和2年1月～3月)での新型コロナウイルスの影響によるマイナス幅(卸小売業マイナス14.2ポイント、サービス業マイナス14.5ポイント)が大きかったため、今回の調査においては、それぞれの対応策等により景況感としては多少の意識の変化が見られる。一方、製造業及び建設業については、前回調査時のマイナスに続いての2期連続マイナスとなっており、新型コロナウイルスの影響が今期も大きく結果としてでており影響の甚大さが表面化している。

先行調査では、先行3ヶ月が1.8ポイントのプラス、先行1年が2.1ポイントのプラス、業種別に見ても、先行3ヶ月では建設業の0.6ポイントのマイナス以外は±0～6.1ポイントのプラス、先行1年では、全ての業種で±0～6.0ポイントのプラスになっている。先行きについての期待感も感じられる状況にあるが今後も予断を許さない大変厳しい状況が伺える。

■経営動向

○製造業・建設業

	今期		前年同期比		前期比	
	今回	前回	今回	前回	今回	前回
引合	/		-43.8	-26.5	-31.9	-34.7
売上			-45.8	-30.6	-44.7	-30.6
仕入単価			-50.0	—	-42.2	—
採算			-25.0	6.1	-26.1	-26.5
資金繰り	-22.9	-28.6	/		/	
業況	-45.8	-30.6				

経営動向DIの算出方法

「良い」とみる割合(%)から、「悪い」とみる割合(%)を引いてDIを算出

(「良い」と「悪い」の割合が同じ場合、DIは「0」)

(製造業・建設業)グループと、(卸小売業・サービス業)グループに分類して集計をしている。

○卸小売業・サービス業

	今期		前年同期比		前期比	
	今回	前回	今回	前回	今回	前回
売上	/		-80.6	-70.6	-66.7	-55.9
客数			-66.7	-64.7	-66.7	-64.7
客単価			-37.1	-44.1	-36.1	-35.3
仕入単価			-36.1	—	-13.9	—
採算	-50.0	-23.5	/		/	
資金繰り	-50.0	-41.2				
業況	-66.7	-47.1				

★今期の経営動向

製造業・建設業においては、すべてにおいて悪化し、特に採算においては前回比で31.1ポイントの大幅なマイナスとなっており、業績の悪化が顕著である。業況についても、マイナス15.2ポイントのマイナスであり、前回調査(令和2年1月～3月)時点でも11.0ポイントのマイナスとなっている。資金繰りについては、5.7ポイントのプラスとなっているが、前回調査時が24.3ポイントのマイナスであったため、多少の回復傾向はあるとしても厳しい現状に変わりはない状況にある。

卸小売業・サービス業においても、前回調査に続いての大幅な悪化が顕著である。特に採算面での26.5ポイントマイナスとマイナス幅が大きく、資金繰り及び業況についても、それぞれ8.8ポイント、19.6ポイントのマイナスとなっており、先行きの不安が増しているものと思われる。

★前年同期比、前期比

製造業・建設業においては、前年同期比では、採算が横ばいであるが、引合いで17.3ポイントのマイナス、売上で15.2ポイントのマイナスと前回調査(令和2年1月～3月)時点と同様の大幅なマイナスとなっている。前期比については、引合い及び採算面で多少の持ち直し感はあるが、売上においては14.1ポイント大幅なマイナスとなり、明らかな悪化傾向が伺える。

また、卸小売業・サービス業については、客単価に僅かながら改善が見られるものの、売上がマイナス10.0ポイントの△80.6、客数がマイナス2ポイントの△66.7ポイントと過去に例のない悪い数値となっている。前期比についても、すべての項目について0.82ポイント～10.8ポイントのマイナスとなっており、ともに新型コロナウイルス影響により一段と経営環

■今期直面している経営上の問題点 (業種別上位5項目 項目の後の()は前回順位(同順位あり)、業種の後の数字は選択された数)

	製造業(56)	建設業(60)	卸小売業(22)	サービス業(61)
1位	事業資金の借入難(-) 20.4%	金利負担の増加(-) 16.9%	事業資金の借入難(-) 32.0%	従業員の確保難(-) 17.2%
2位	従業員の確保難(3) 1.3.0%	事業資金の借入難(-) 15.4%	競争の激化(1) 20.0%	設備の不足、老朽化(2) 15.5%
3位	設備の過剰(-) 1.3.0%	従業員の確保難(1) 12.3%	経費の増加(5) 16.0%	人件費の増加(-) 13.8%
4位	金利負担の増加(-) 11.1%	人件費の増加(-) 9.2%	金利負担の増加(-) 12.0%	事業資金の借入難(-) 12.1%
5位	人件費の増加(5) 9.3%	消費者ニーズの変化(-) 9.2%	消費者ニーズの変化(3) 8.0%	仕入価格の上昇(5) 10.3%

前回調査時点では、製造業及び建設業の「従業員確保難」「需要の停滞」、卸小売業及びサービス業での「需要の停滞」「競争の激化」への早急な対応の必要性を見て取れていたが、今回の調査においては、全体の6割が新たな問題点として「事業資金の借入難」等の融資関連が上位にきている。特に製造業及び卸小売業では「事業資金の借入難」が1位となり、サービス業を除く3業種においては、「金利負担の増加」も新たに入るなど、新型コロナウイルス対応に係る資金調達及び支払い関連が深刻な問題として顕著に表面化してきている。全体的に、今後の経営についての先行き不安な状況が表れている。また、サービス業で「従業員の確保難」が1位となっているが、新型コロナの影響は受けているものの、慢性的な従業員不足も発生しているものと思われる。

この調査は、福知山市商工会会員事業所を対象として、景気判断や経営動向等を明らかにし、売上向上を目指した事業計画の策定、販路開拓や商品開発、事業承継、経営改善等経営力向上を推進する基礎資料として活用することを目的に実施しています。

次回は令和2年7月～9月の状況について、令和2年10月に調査する予定です。商工会の支援員が調査にお伺いしますので、調査対象の事業所様には引き続きご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。